

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1丁目 )

事業所番号	0671100444		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームふきのとう		
所在地	山形県新庄市大字鳥越字駒場4519-2		
自己評価作成日	令和 5年 11月 14日	開設年月日	平成 18年 3月 29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力医療機関の新庄徳洲会病院、訪問看護ステーションとの連携により、体調の変化に早期に対応し健康管理を行い、重度化しても生活が継続できるよう努めている。また、施設ではなく住まいとして心地よく過ごせるように、四季折々の行事や食文化を取り入れ、一瞬一瞬の喜びを大切に生活している。出来る事、出来ない事の見極めを行い、その人らしさを出しながら、役割りをもって協力して生活している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 12月 8日	評価結果決定日	令和 6年 1月 4日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナウイルスの5類移行によりまだ制限はあるが居室で家族と顔を合わせて話し合える面会や馴染みの美容室への外出なども出来るようになり、利用者に笑顔が戻ってきています。日常の健康管理や体調変化、重度化時に素早く対応出来るよう医療機関・訪問看護との連携を取り、本人・家族の安心に繋がりが「穏やかな日々」を送れるようにしています。利用者の生活史や思い、心身の状態を把握して食事づくりの手伝いや掃除など出来ることを一緒に行い、毎日の料理や行事食を楽しみその人らしく自分のペースで暮らせるように取り組んでいます。研修でケアの質・技術の向上を図り、全体会議やユニット会議で評価・検討して一人ひとりの個性を大事にしたプランを作成し、職員全員で支援している事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関に「その人らしく、家庭的で穏やかな日々を」の理念を掲げ、共有できている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、地域の方を招いての行事や外出等はなかなか再開できない状況ではあるが、運営推進会議は対面式で再開し、地域の区長さんにも参加して頂いており、少しずつ交流が増えてきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に4回、広報誌を発行し、ふきのとうの様子を発信している。近隣の地区へは全軒に配布、少し離れた区には回覧板で回覧して頂いている。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度からは、対面式の運営推進会議を再開しており、ふきのとうの近況を報告している。頂いたご意見やご要望を反映できるよう努めている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して近況報告できている。また、日常的に、困った事があったり判断に迷う時などは電話にて相談し、協力して頂いている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束はしないという事を念頭に、年に2回の施設内勉強会にて知識を深めている。玄関は夜間のみ施錠し、日中は安全確保が難しい時のみ一時的に施錠する以外は、基本開放し見守りしている。現在、身体拘束の該当者はいないが、スピーチロック等、職員間で意見を出し合い、入居者が安心安全に、心地よく過ごせるよう努めている。	身体拘束適正化検討委員会を毎月の全体会議の中で職員全員をメンバーとして開催し、離脱願望や歩行に不安ある方への対応、スピーチロック(言葉の拘束)に繋がる言葉遣いなど毎日の関わりを評価・検討して身体拘束ゼロを目指している。また研修を通してその弊害やリスクを学び、利用者が安全に安心して暮らせるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の身体拘束の施設内勉強会と、高齢者虐待防止の勉強会を実施しており、常に自分たちのケアを振り返り、意識してケアできるよう努めている。また、虐待に繋がる事がないよう、職員のメンタル面やストレスにも気付けるよう、メンタルヘルスの勉強会も実施している。	高齢者虐待について研修や勉強会で学び、日頃のケアをチェックリストで振り返り虐待防止に努めている。不適切なケアが見られた時に職員同士注意し合える環境や職員のストレス軽減などのメンタルヘルスケアにも取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設内勉強会にて学ぶ機会を作っている。必要があれば活用できるように支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、承諾してもらっている。契約前の段階でも、入居に関する不安が軽減できるように説明を行っている。その他、随時質問等にお応えし、安心して頂けるよう努めている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、意見箱の活用はないのが現状である。日々の連絡の中でご要望をお聞きしたり、年に1回の家族様アンケートの実施でご意見が頂けるようにし、反映できるよう努めている。	「ふきのとうだより」や毎月のお便りで受診結果や写真・コメントを添えて生活の様子を知らせ、面会時や年1回の家族アンケート、特に電話連絡時が多く意見・要望を聞いている。出来ることはすぐ対応し、検討事項は職員間で話し合い応えている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回職員アンケートを実施し問題解決や意見の反映に努めている。また、月に1回の全体会議やユニット会議で意見交換できるようにしている。その他、個別に話しをする機会を設けるようにしている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、会社のアンケートを実施し、問題解決や意見の反映に努めている。また、その都度、必要に応じて就業規定等の改定がなされている。事業所としては、個々の家庭の事情や体調とうに応じてシフト調整し、働きやすい環境作りに努めている。	就業環境等についての職員アンケート調査や管理者による評価などで、意見の反映や課題等の解決に努めている。夜勤や勤務時間、休暇取得などでは職員の生活環境に配慮してシフト調整により互いに協力し合い、働きやすい職場環境作りをしている。	
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナが5類相当になり、外部研修の案内も増えており、年に最低1回は外部研修に参加できるように調整している。施設内勉強会も随時実施できしており、できるだけ多くの職員が参加できるように回数を増やす工夫をしている。	研修計画に沿い毎月数回に分けて研修を行い職員全員が受講出来るようにし、外部研修へは年1回以上の参加を促している。報告書作成で内容を振り返り、外部研修時は伝達して共有出来るようにしている。職員の意識の変化が見られ、ケアの意欲や力量アップに繋がっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部講師を依頼して勉強会を実施し、交流できる機会を作っている。また、コロナで中止していた最上地区GH連絡協議会も再開し、2か月に1回情報交換できている。村山地区GH連絡協議会にも参加できている。交流が図れている。また、会社内の全国の施設との繋がりも増えてきており良い刺激になっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の段階から、本人の様子を観察したり話を聞いたりし、入居後の環境の変化にも対応できるよう職員間で情報を共有し努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の段階から、家族の不安や要望をお聞きし、安心して頂けるよう説明に努めている。また、家族と職員が共に本人を支えていけるよう、本人の様子はこまめにお伝えし、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に得た情報をもとに暫定ケアプランを作成。入居後の観察を行い、必要なサービス内容を盛り込んだケアプランを作成している。生活歴や趣味等も盛り込むようにしている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主体者は入居者である事を忘れず、出来る事を見極め、過剰な介護にならず、不足する事もないように支援している。興味のある事、得意な事を役割りとし、みんなで協力して暮らす環境作りを努めている。	家事や掃除、朝のカーテン開けなど利用者に来ることを手伝ってもらい役割を持って暮らせるように努めている。思いを表出出来る方は少ないが生活史や関わりの中での気づきから推測し、「主体者は利用者」と意識して職員は協力し合い利用者の望む生活を支えている。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの関係を継続できるよう、家族と職員が共に本人を支えていけるように支援している。コロナで、以前のように繋がりがもてない時期もあったが、電話やお便りで連絡したり、その都度面会制限の緩和をしたり対応している。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も得ながら、出来る範囲で支援している。自宅に行ったり、会いたい人に会ったりできるよう努めている。また、地域に根差した食文化を取り入れ、旬の食材を使った食事提供や、行事を行い、喜びに繋がっている。	コロナウイルスの5類移行によりまだ制限はあるが居室内の面会では家族や親戚、友人・知人と顔を合わせて笑顔になり、また自宅やハリ治療、美容室など馴染みの場所への外出も可能となり地域に暮らす実感を持ってもらえるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で、一人一人の性格や相性を把握し、それぞれの認知症状を受け入れながら、孤立することなく良好な関係で過ごせるように、職員が働きかけている。皆で楽しみを共有できる時間、一人でゆっくり過ごせる時間、どちらも大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも来て頂けるような声掛け、見送りを行っている。退去後、2か月はお手紙を発送しており、何かあれば相談しやすいように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の表情や仕草、何気ない一言から、希望などを探っている。耳の遠い人に対しては、筆談したりと工夫しながら、可能な限り本人の希望に寄り添い、信頼関係が築けるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から生活歴をお聞きし、ふきのとうでの生活が、これまでの生活の延長になれるよう努めている。自宅で使い慣れた物や家具を持ってきてもらったり、過ごしてきた環境に近づけられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定を行い健康状態を把握し、日々の生活の様子は個々の記録にて管理している。一人だけの情報とならないように、小さな気付きも記載し情報を共有している。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議や、日々の業務のなかで、気になった事を話し合っってプラン作成に繋げている。家族の要望も、その都度確認し、言いやすい関係作りに努めている。一人一人に合った、個別のプラン作成に努めている。	毎月ユニット会議で一人ひとりについてプラン評価をもとに日常生活での気づきや変化への対応を話し合い、「カンファレンス(検討会)の要点」として記録し見直しに繋げている。本人・家族等の意見や要望を都度確認し、好みや趣味、歩行や排泄など身体状況についての取組みを具体的に取り入れ個別性を大事にしてプラン作成している。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録に努めている。小さな気付きも大切にし、皆で情報を共有できるように、その場に居ない職員にも分かるような記録、申し送りに努めている。	生活の中での小さな気づきも大切にして申し送りノートや業務日誌に記録し、出勤時に確認して情報を共有しケアの実践に活かしている。電子化によるタブレット導入で情報共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、状況に応じて、必要な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張美容や理容、出張販売などを利用し、楽しみに繋げている。また、ホームとしてシルバー人材を利用して環境整備をしてもらったり地域の資源を活用できている。今年度は包括よりいきいき100歳体操を学び取り入れている。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、希望する医療機関を確認したり提案したりして、希望に沿った医療が受けられるようにしている。また、月に1回の訪問診療、週に1回の訪問看護があり、その都度相談できる体制になっている。薬局の配達制度も利用している		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護にて、状態報告や相談を行い、体調管理のサポートをしてもらっている。24時間相談できる体制もできている。また、同一敷地内に有料老人ホームがあり、何かあれば看護師に協力して頂ける体制があり、安心につながっている。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、こちらから情報提供を行い、入院中の環境の変化の不安が少しでも軽減できるように努めている。入院後は随時相談員と連絡を取り状況の把握を行い、早期退院できるよう調整している。	入院時はADL(日常生活動作)や心身状態などの情報を現場看護師に伝え、状態把握に努めて利用者が安心して加療・早期退院出来るようにしている。退院時は状態の把握と共に今後の治療等について聞きとり、退院後の生活に備えている。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における指針、看取りの指針の説明を行い、急変時や終末期についての希望を確認している。入居後も、状態に応じてその都度希望確認をし、訪問看護連携のもとで希望があれば看取りの支援もしている。また、年に1回訪問看護と共に看取りの指針の見直しを行い共有している。	「看取り介護に関する指針」に基づいて医療機関や看護師と職員が連携し、本人や家族等の意向を踏まえて看取り介護を行っている。職員への教育と家族等に対する心理的支援を行い、本人と家族等の安心と納得を得られ、その人らしい最期を迎えられるようにチームで取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新庄徳洲会病院の協力のもとで、訓練用のAEDと人形を使用し、心肺蘇生の勉強会を年に2回実施し、万が一に備えている。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各種マニュアルの整備を行い、日中想定、夜間想定、有料との合同訓練の、年3回の避難訓練を実施している。うち1回は、地域の消防団の方にも参加の協力を頂いている。その他、電話連絡訓練、搬送訓練、水害想定訓練も実施し、万が一に備えている。	防災委員会を設置し、隣接する有料老人ホームと合同の避難訓練や、ホーム独自で夜間を想定した訓練なども行っている。利用者の安全確保を最優先に災害発生時の対応と適切な避難誘導を目標にして防災意識を高め、地元消防団と協力体制を築いて各種災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や接遇についての勉強会を行い、一人一人を尊重した声掛け対応に努めている。	職員研修で倫理や法令順守と認知症ケアなどについて学び、一人ひとりの人格を尊重し、言葉掛けや語調などで誇りを傷つけたりプライバシーを損ねないように注意している。常に利用者を受け身の立場に置かないように心掛け、人生の先輩として敬って支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えやすいような質問や雰囲気にも努めている。また、決定が難しい場合は、選択できる工夫をし、自分で決定できるように働きかけている。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員不足や感染症対策等もあり、全ての入居者の希望に添えるのは難しい場面もあるが、入居者が主体である事を忘れず、職員の都合の生活にならないように努めている。自分で判断できない方には、生活ペースやリズムを作るお手伝いもしながら、心地よく生活できるように努めている。	毎日の生活が職員主導にならないようにし、一人ひとりの希望や有する力を大切にして自分らしく暮らしてもらえるように支援している。起床時間や食事の時間なども体調を見ながらその時の気持ちを尊重し、柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔が保てるように、きれいな身だしなみができるように働きかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、食後の片づけなど、全ての過程で入居者と共にできており、やりがいに繋がっている。また、四季折々の旬な食材を取り入れた食事も喜んで頂いている。	朝夕の食事はキッチンで作って昼は配食サービスを利用し、利用者も力を活かして一緒に手伝い、音や匂いが楽しみや喜びとなって心身の維持向上に繋がっている。季節の食材を活かし、行事食や出前なども取り入れて楽しく食事が出来るように雰囲気作りを大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を活用し、その都度食事や水分量が不足していないか確認している。状況や体調に応じて食事時間にこだわらずに提供したり、トロミやペースト、粥や刻みなど、個々の応じた食事形態で提供している			
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアの支援を行っており、口腔内の清潔と、誤嚥性肺炎の予防に努めている。個々に応じた、歯ブラシや口腔ケアスポンジ、口腔ケアペーパー、殺菌用口腔液など状態に応じたケアをしている。	起床時に洗顔と一緒にうがいや入れ歯を洗ったり、毎食後に声掛けして口腔ケアを行い誤嚥性肺炎などを引き起こさないように注意している。歯磨きも認知症の度合いによって難易度が違い言葉掛けを考えてケアしている。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、事前にトイレ誘導するなどして失禁せずにトイレで排泄できるよう働きかけている。トイレでの排泄を基本とし、出来る限りオムツ使用にならないように支援している。	排泄チェック表を使って動作を見ながら適時に誘導し、習慣やパターンに応じて個別の排泄支援を行っている。失禁した場合には周りにも配慮しながらさりげなく対応し、戸惑いや恥ずかしさなどでダメージを受けないように言葉掛けを工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、こまめな水分補給や、適度な運動や体操を取り入れている。また、センナ茶の飲用や、必要に応じた薬の使用などで、便秘しないように努めている。			
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の週間予定は決まっているが、その日の気分や体調、要望などにより臨機応変に対応している。好みの湯温や順番、希望入浴の設け、楽しみに繋げている。状況に応じて夜間入浴も行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子をみながら、休息、入眠できるように声掛けしている。眠れない時は、リビングで一緒に過ごしたり、飲み物を提供したしながら、無理強いする事なくタイミングをみて支援している。			
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の必要性和内容を理解し、安全に正しく服用できるように努めている。特に向精神薬は、副作用についても気を付けて観察し、過剰な投与にならないよう気を付けている。	一人ひとりの薬を整理し、服薬時は職員間で確認してから手渡してきちんと服用できているかを確認している。服用後の様子を記録して訪問看護師や医療機関に情報提供している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な事や好きなことを情報収集し、生活の中で楽しみややりがいに繋がるように取り入れている。		
49		○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症対策もあり、以前のような外出までには至っていないが、5類相当に緩和された事もあり、少しづつ外出機会も増えている。天気の良い日は日常的に散歩や日光浴に出たり、ドライブも継続できている。個別に希望する方には、家族の協力も頂きながら外出できるように働きかけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金制度を利用しながら、本人の希望に応じて購入支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状態に応じて電話で話して貰ったり、いつでも繋がれる安心感が感じられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除を行い、清潔で綺麗な環境で生活できるように心がけている。また、季節感のある花や装飾物を飾り、心地よく生活して頂けるように努めている。外にはプランターにお花を植え、毎日の水かけなど日々の楽しみに繋がっている。	リビングや和室・廊下などの共有する部分は安全性を第一に考えて物の配置や温度・湿度を管理し、明るさや清潔感等に配慮して心地よく過ごしてもらえるようにしている。屋内で洗濯物を乾かしたり花や季節ごとに作った作品を飾って生活感が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やリビング、個々の居室、廊下の椅子、玄関前、ソファ、外のベンチなど、それぞれが好みの場所で過ごせるように工夫している。リビングでは相性なども考慮しながら、席の配置にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきてもらったり、家族との思い出の写真を持ってきてもらったり、馴染みの物がある環境の中で安心して生活できる環境作りに努めている。日々の整理整頓にも心掛けている。	ダンスを持ってきている人がいたり、写真や椅子・調度品などを置いて思い思いに設えている。物の配置も本人の意向と身体機能に合わせて居心地よく過ごせるように配慮し、部屋全体が落ち着いた雰囲気に整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓を心掛け、使いやすさと安全性に繋げている。一人一人に合った居室環境作りに努めている。		